令和７年度　里親学生支援事業　研修会・意見交換会を開催しました

12 月 7 日（日）本学湖医会ラウンジにおいて「地域里親学生支援」事業の一環である「研修会・意見交換会」を開催しました。
研修会には里親の先生方、プチ里親、後援会役員の方々にご出席いただきました。

今回の研修会では、里親学生支援室長 相見 良成 教授から「里親学生支援事業のこれまでと、これからの取り組みについて」と題して、ご講演いただきました。
文部科学省の「平成１９年度新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」に地域医療を担う医師・看護師の育成をめざす地域参加型支援事業『地域「里親」による医学生支援プログラム』（里親 GP）が採択され、 ２００７年１１月から２０１１年３月の期限付きで文部科学省からの補助金を受けて実施してきた経緯などを説明しながら、これまでの取り組みをクリッカーを用いてクイズ形式に出題し、学生たちにも分かり易いようにお話しいただきました。また、今後の本事業の取り組みやプチ里親の確保などについて意見交換を行いました。
引き続き、和やかな雰囲気の中、里子も交えて懇親会を行い、最後に学内を見学いただきました。

相見良成 教授

講演の様子

懇親会の様子

記念撮影

お忙しい中、ご出席いただきました皆様、ありがとうございました。

※滋賀医科大学地域里親学生支援事業は、１人でも多くの卒業生に滋賀県内の医療に従事することを目的とし、深刻化する地方の医師・看護師不足の解決を目指す取り組みを行っています。
今回の研修会・交流会は、里親（県内で活躍されている医療従事者）・プチ里親（地域の皆様）・里子（この制度の登録学生）が交流し、医療人としての心構え、地域医療の現状などを伝える場として毎年１回開催しています。

（この研修は、ＮＰＯ滋賀医療人育成協力機構との共催で実施しました。）